

吉野連山の尖峰・大天井ヶ岳 おおてんじょう

二上山雌岳頂上から大峰のおおきな山脈が一望できるが、その吉野山から山上ヶ岳に続く山並みの真ん中あたりに鋭くとがった三角形のピークがある。それが大天井ヶ岳だ。長野県の北アルプスにも同じ文字の山があり、「オテンショウ」と呼ばれているが、奈良のこの山は「オオテンジョウガタケ」である。

難所ゆえの山名

熊野三山をめざす奥駈道は現在この山頂を通らないが、かつての道はここを通り、山上ヶ岳参りの難所だったそうで、山名もそこから来ていると言う。

にょにんけっかいもん 女人結界門のある五番関

7月20日近鉄下市口駅前発のバスは終点の天川村

どろがわ洞川温泉に 10:30 着。タクシーでごばんぜき五番関トンネル西

口に。準備を整え 11 時登山開始。杉・檜林の中の急登をゆっくり登って 11:20 五番関着。ここは大峯奥駈道の要衝。尾根上の広場の南端には厳めしい「女人結界門」(写真上)が建っている。ジェンダー平等へと進みつつある今日、時代錯誤もいいとこだが、「世界遺産登録の条件だった」と地元では女人禁制を当然視する人も少なくない。



女人禁制が残る異例の地

全国各地に残っていた女人禁制も時代と共になくなりつつあるが、「通年女人禁制」を維持しているのは全国でも極めて異例のことだ。しかもこの地域は国立公園に含まれ、2004年には世界遺産に登録されている。所有の如何にかかわらず、「公的な地域」となっている。

登山の対象としても魅力的

山上ヶ岳を中心とするこの地域は、変化にとんだ地形、素晴らしい眺望、高山植物等多様な生態系など魅力満載だ。それなのに「女人禁制」で、



↑リョウブ しかもこの区域が奥駈道の途中にあるため、女性が「全行程を歩きとおす」上での最大の阻害要因となっている。奥駈道の魅力を女性にも満喫してもらう上でも一日も早く「女人禁制」は撤廃されるべきだと思う。

この日出会ったただ一人の青年

「女人禁制」について考えていると、大きなリュックを背負った青年が北からやってきた。熊野本宮まで歩き通すのだと言う。あと何日も険阻な山道を歩き続けるのだ。



展望もなく、花も少ない尾根道

山上ヶ岳に向かう青年を見送って奥駈道を北に歩き出す。樹林の中の道はきびしいが、涼しく、特に東の斜面が開けた場所では涼風が吹き抜け、炎暑の日常からは想像もできない天国だ。

しかし、尾根道とはいえ、樹林の中なので展望に欠け、花も各所にリョウブが咲いているのは、ツルアリドオシが可愛い白い花をみせているのみ。

無くなっていた頂上からの展望

12:35 大天井ヶ岳山頂着。標高1439m。ナツアカネとヒョウモンチョウが舞っている。トンボも避暑をすることだが、餌になる小さな昆虫もいるのだろう。三等三角点の石柱を中心とす

る広場も草木が生い茂り、さらに以前登った折に広がっていた北西方面の展望も、成長した木立に遮られて、金剛・葛城の山並みも木の間ごしに見えるだけ。二上山等の遠望を楽しみに登っただけに、少々落胆した。

12:55 下山開始。13:45 五番関、14:00 登山口着。



↑この時期五代松新道に咲くギンバイソウ(写真は城さん)



帰りに立ち寄った「五代松新道記念碑」

帰り母子堂で下ろしてもらい、法力峠向けて10分ほど登り、右折して洞川方面へと下る。まもなく道端に大きな自然石があり、そこに「五代松新道五十年記念」の金属製文字板が取り付けられている。

稲村ヶ岳への道を拓いた赤井五代松さん

この碑は稲村ヶ岳への道(五代松新道)開設50周年の記念碑なのだ。昭和初期まで稲村ヶ岳には「良い道がなく、登りにくい山」で「屈強な山男だけが時折回り道をして登るに過ぎなかった」(奈良山岳会編「青垣の山々」)が、洞川の赤井五代松さんが現在の登山道を作ったので、誰でも登れる山になった。

「自然を守る心は平和の元成り」

この碑には五代松さんの横顔のレリーフ板も取り付けられており、そこには「自然を守る心は平和の元成り」の文字が浮き彫りにしてあった。

この碑の設置日は昭和61年6月吉日となっている。第2次世界大戦が終わって41年後のことだが、赤井五代松さんと、碑を造った人々の思いが伝わってくる。

五代松鍾乳洞の発見者、稲村小屋の創設者

赤井五代松さんはこの碑の少し下にある五代松鍾乳洞の発見者でもあり、また山上辻にある稲村小屋の創設者でもある。

私たちも稲村ヶ岳登山の際は、心して登るようにしよう。

この日も五代松鍾乳洞では見学者が列を作っていた。

健生会が「いのち、くらしなんでも相談所」を設置

電話は0120-930-246(月～金・17時迄)お気軽にお電話を

